

第5章 重点施策

5-1 重点施策の設定	··· 77
5-2 重点施策のイメージ	··· 81



Shinshiro City

5-1 重点施策の設定

今後、第4章に掲げた方針により、長期的な視野に立ち、まちづくりの将来像や目標の実現を図っていきます。

一方で、人口減少は進み、少子・高齢社会による担い手不足の影響は一層顕在化してくるものと思われます。また、高齢化等による社会保障費の増加や生産年齢人口の減少による税収不足などの慢性的な財政制約の中、投資的経費をマネジメントしながら効率的な都市経営を行っていく必要があります。しかしながら、限られた財源で広く薄く投資をしていけば効果の発現に多大な時間を費やすこととなってしまいます。

このような中、国道151号の交通量の増加と国道151号が持つ潜在的な開発需要、新東名高速道路新城ICや三遠南信自動車道鳳来峡ICの開設を契機とした新たな広域観光需要、道の駅の隆盛、スポーツツーリズムの振興、商業施設の新規出店など、ポテンシャルが高いまちとして今までにその萌芽が垣間見えています。

次世代へと繋げるためにやるべきことは山積しています。そこには優先順位をもって事業を推進していく必要があり、限られた資源を有効に使い、集中的な投資によってより限定された範囲でより密度の濃い取り組みを行い、効果を早期に発現させていくことが重要となります。それによって本市の魅力の向上や市民満足度の向上を図り、定住の促進、交流人口の増加、財源の増加がさらなる投資を生み、次の重点施策へと移行していくという、好循環へと繋げていきます。

そのため、今後の重点施策を以下のように定め、その効果を市全域へと発揮させていくことを目標とします。

重点
施策

賑わいと活気のある市の中心核と暮らしを結ぶ交通ネットワーク

- ④ 民間需要に応え、さらに掘り起こす国道151号沿道の商業利用の促進
- ④ まちづくりを先導する付加価値の高い、自由度や周遊性のある公共交通の検討
- ④ 地域と市の中心核を結ぶ公共交通の検討
- ④ まちなかの賑わいづくりの種としての軽トラ市のさらなる発展
- ④ 生活しやすい、訪れやすい市街地として駅前広場等の整備
- ④ 世代問わず、交流の場となるオープンスペースづくり

※投資的経費：道路・橋梁、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備に要する経費であり、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費からなります。

④ 民間需要に応え、さらに掘り起こす国道151号沿道の商業利用の促進

国道151号は、新東名高速道路新城ICと東名高速道路豊川ICを結ぶ広域幹線道路であり、本市の中では交通量が一番多く、まちの主軸としての機能を果たしています。沿道の土地利用としては、現在、コンビニエンスストアや診療所などが多く立ち並んでいます。

しかし、立地している業種は類似したものが多く、特に診療所等の医療関係が目立ちます。コンビニエンスストアや診療所など、類似した業種のみが多く立地してしまう原因是、国道151号が主に市街化調整区域に位置しているからです。そのため、他業種による土地利用を図ることができず、立地可能な業種・規模に偏り、類似の業種が乱立しています。

一方で、国道151号沿道への立地に係る相談は広く寄せられ、スーパー・マーケットやホームセンターをはじめ、ホテルや娯楽施設など幅広いニーズがあります。本来であれば、こういった業種は市街化区域での立地が望まれますが、民間のニーズは、市街化区域・市街化調整区域との分けではなく、あくまで国道151号沿道という条件に集まっています。

1つ目の重点施策は、このニーズと土地利用規制のギャップを埋めるため、国道151号沿道の幅広い商業活用を進めるものです。国道151号は主に市街化調整区域に位置していますが、市街化区域に隣接し、また本市の主要な駅である新城駅・東新町駅からも徒歩圏に位置していることから、国道151号沿道のニーズを活用することで市街化区域の賑わい・活気づくりに生かすことができます。民間ニーズに適応することで民間活力を生かしながらも無秩序な開発をコントロールし、古くからの既成市街地の魅力を高めるためにも、地区計画制度を活用し、商業施設による土地利用を推進します。

⑤ まちづくりを先導する付加価値の高い、自由度や周遊性のある公共交通の検討

本市は市街化区域が極端に狭いことから、コンパクトな市街地が形成されています。コンパクトな市街地であることは、働く世代はもちろん、子どもや高齢者のような移動弱者であっても生活しやすい環境があるということです。しかし、本市の場合には、商業施設などが少ないため生活利便性が高いとは感じられず、また、公共交通も脆弱であるためコンパクトな市街地にもかかわらず魅力や求心力は決して高いとはいえません。

2つ目の重点施策は、自家用車に頼らずとも生活しやすい環境を整え、さらには国道151号沿道にある商業施設・医療施設を活用し、コンパクトな市街地に欠けている生活利便性を補完することができる公共交通を検討するものです。これまで以上にまちづくりにとって重要となる公共交通を、単なる移動手段としてではなく、そこに住まう、商う、訪れるこの動機付けとなるような付加価値の高いものとすることで、市街地の魅力・求心力を高め、さらには国道151号のさらなるニーズへと繋げることのできるよう、市街地を行き来し、自由度や周遊性の高い公共交通の実現に向け、検討を進めます。

④ 地域と市の中心核を結ぶ公共交通の検討

本市はコンパクトな市街地を形成していますが、一方で市域は広大で、この広大な市域に多くの地域が存在しています。地域自治区制度を生かしながら、地域の魅力づくりや地域ごとのまちづくりを進めており、また、価値観の多様化した現代社会においては、この地域ごとの違った魅力に惹かれる人も多くいます。しかし、地域によっては既に生活に必要な買い物さえも不便になっている状況があり、人口減少下の社会情勢では今後もこのような地域が増加することが予測されます。

3つ目の重点施策は、そのような地域と市の中心核を結ぶことで、生活利便性を確保し、いつまでも住み続けられるような、また、地域の魅力に惹かれた人たちがその地域を選択しやすくすることのできる公共交通を検討するものです。他の重点施策により魅力や利便性の向上を図っていく市の中心核と地域の交通ネットワークを確保し、地域に不足する生活利便性などを補完することのできる公共交通の実現に向け、検討を進めます。

⑤ まちなかの賑わいづくりの種としての軽トラ市のさらなる発展

市街地の商業施設は少なく、さらには古くからの店舗では後継者不足が顕著なため今後も減少傾向にあると予測されます。また、多くの店舗は住居と併用された建物であり、店舗の閉鎖後は専用住宅となるため新たな店舗は立地されず、まちなかの賑わいを創出しにくい状況にあります。一方で、日本三大軽トラ市のひとつであるしんしろ軽トラ市は、毎月第4日曜日に開催され、多くの出店、訪客で賑わっています。

4つ目の重点施策は、この軽トラ市を生かしたまちなかの賑わい形成を進めるものです。社会情勢の変化、都市構造の変化、技術革新などまちづくりの基礎となるものは大きく変わってきていることから、軽トラ市のような可動性のあるまちづくりによる賑わいづくりは大きな可能性を秘めています。この軽トラ市を賑わいの場で終わらせることなく、観光施策との連携や若者の起業などビジネスチャンスの場として発展を図ります。

④ 生活しやすい、訪れやすい市街地として駅前広場等の整備

本市の市街地はコンパクトではありますが、生活やビジネス、観光の面での市街地整備が遅れています。本市の中心的な駅である新城駅前が未整備であり利用が不便であることや、市街地内の交通量の多い道路に歩道が設置されておらず通行に危険が伴うことなど、決して良好な市街地とはいえない状況があります。

5つ目の重点施策は、市街地の整備を促進し、コンパクトな市街地にふさわしい環境づくり、さらには来訪者が訪れやすい環境づくりを進めるものです。生活の場、経済活動の場、観光の場などとして市の中心核を形成するにあたって特に重要な、新城駅前広場、都市計画道路栄町線、都市計画道路町並線、中町交差点から新城警察署南交差点を結ぶ区間の県道能登瀬新城線、新城駅周辺の公共交通結節点となるバスステーションの整備を進めます。

⑤ 世代問わず、交流の場となるオープンスペースづくり

市街地の賑わいや活気をつくっていくにあたって足りないものが人々が滞留できる空間です。本市の市街地には、公園や公共空間のベンチスペースなど、人がそこに留まり、交流することのできる空間がほとんどありません。そこに住まう人たちはもちろんですが、例えば、軽トラ市へ訪れる多くの人たちも座って会話を楽しんだり、休んだりする場所がありません。

6つ目の重点施策は、市街地の賑わいや活気づくりに必要な環境づくりとして、住んでいる人や訪れた人が交流し、滞留できる空間づくりを検討するものです。滞留できる空間としては公園やボケットパークなどがありますが、歩いて暮らせるまちづくりとして、道路空間の活用によって滞留できる空間を生み出すなど、これからの中づくりに適したオープンスペースづくりの検討を進めます。

5-2 重点施策のイメージ



